

Trends of allergic symptoms in school children: large-scale long-term consecutive cross- sectional studies in Osaka Prefecture, Japan.

出典 Pediatr Allergy Immunol. 2011 Sep;22(6):631-7.
(<http://www.ncbi.nlm.nih.gov/pubmed/21466587>)

著者 Yura A 他

調査地域 大阪府

調査時期 1975～2006 年

調査対象 7～12 歳

依頼数（回収率） 1995 年：520476 人（95.3%）
 1997 年：489725 人（93.6%）
 2000 年：468083 人（93.5%）
 2003 年：475639 人（93.2%）
 2006 年：490505 人（92.2%）

診断方法 その他の調査票

有症率 鼻炎： 1983 年：12.3%
 1991 年：16.7%
 1993 年：21.6%
 2003 年：25.4%
 2006 年：24.7%

調査概要 大阪の小学生を対象としたアレルギー症状の長期的調査論文。
何らかのアレルギー症状を有する割合は 45%前後で、高学年になるにつれて
通年性と季節性のアレルギー性鼻炎の有症率が増加していた。